

会議議事録

会議名	平成 30 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 31 年 2 月 21 日 (木) 15 : 00～17 : 00
場所	本校 704 教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：須貝和則（国立国際医療研究センター医事管理課長）、横堀由喜子（日本病院会学術部長）、山室 靖（東京衛生病院医事課課長）、直井智之（東大和病院事務部長）（計 4 名）</p> <p>② 本校委員：橋本正樹（校長）、宮下明久（事務局長）、吉川 香（医療事務系学科統括兼医療秘書科学科長兼医師事務技術専攻科学科長）、村山由美（医療秘書科副学科長）、黒田 潔（医療マネジメント科学科長兼診療情報管理専攻科学科長）、三宅かおり（医療マネジメント科副学科長兼教務委員長）、河村和恵（医療事務教科系研究会リーダー）、江崎侑子（診療情報管理専攻科教員）（計 8 名）</p> <p>③ 事務局：松本晋圭、川内靖美（計 2 名）</p> <p>④ 記録：小田真理子 （合計 15 名）</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□No.1：平成 30 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会議事録、□No.2：平成 30 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告、□No.3：平成 30 年度学校関係者評価報告、□No.4：平成 30 年度主な内定先、□No.5：平成 30 年度教育活動と学科運営に関する報告、□No.6：平成 30 年度教員研修計画・実績、□No.7：平成 30 年度授業公開実施報告書、□No.8：平成 30 年度アンケート結果報告、□No.9：2019 年度カリキュラム</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、本日出席の企業等委員への謝辞の後、以下の挨拶が行われた。</p> <p>医療の分野では、医師の働き方改革の影響によって医師事務作業補助者が注目を集めている。高等教育も高大接続改革の流れの中で大学の入試制度が変わるなど、卒業することが難しくなるようなアメリカ型に変化していく。これらの動きに乗り遅れないよう委員の皆様方から貴重なご意見を賜りたい。</p> <p>2. 前回議事録の確認（説明者：事務局松本）</p> <p>前回議事録（資料No.1）について、訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。</p> <p>3. 平成 30 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告</p> <p style="text-align: right;">（説明者：橋本校長、宮下事務局長）</p> <p>資料No.2～4 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p>

4. 平成 30 年度の教育活動と学科運営に関する報告

(説明者：吉川学科長、黒田学科長)

資料No.5 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 教員研修に関する報告 (説明者：三宅教務委員長)

資料No.6 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 授業公開に関する報告 (説明者：三宅教務委員長)

資料No.7 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 授業アンケートに関する報告 (説明者：橋本校長)

資料No.8 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 次年度カリキュラムについて (説明者：吉川学科長、黒田学科長、江崎教員)

資料No.9 に基づき、各説明者より説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 今後の予定、その他 (説明者：吉川学科長)

本委員会は年 2 回の開催であり、次回は 7 月を予定している。6 月ぐらいに各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下のとおりとの連絡が行われた。

①31 年度の学科運営計画の説明

②状況報告

最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 30 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 平成 30 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告（説明者：橋本校長、宮下事務局長）

○橋本校長、宮下事務局長より、担当する項目について、資料No.2 に基づき以下の報告が行われた。

1. 学校関係者評価関連

- ・11/18 平成 30 年度第 2 回学校関係者評価委員会
- ・1/21 平成 30 年度学校関係者評価委員会報告書の校長への提出
- ・3/24 平成 30 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催予定

2. 学生の状況関連

- ・平成 30 年度の重点目標、年間の退学率 3.5%以下を設定して取り組んでいる。

3. 2019 年度学生募集関連

(1) 入学試験

	看護科を除く学科	看護科
既実施	<ul style="list-style-type: none"> ・10/13(土)、11/10(土)、11/24(土)、12/15(土)、1/19(土) ・指定校、推薦、ワセダ奨学生、AO、外国人、一般 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校・公募推薦：10/28(日) ・社会人・キャリア：11/24(土) ・一般Ⅰ期：11/24(土)、12/8(土)
今後の日程	<ul style="list-style-type: none"> ・2/9(土)、3/2(土)、3/23(土) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般Ⅱ期：2/3(日)、2/9(土)

○以上の報告について橋本校長、宮下事務局長、吉川学科長、黒田学科長より、以下の補足が行われた。

- ・学校関係者評価委員には教育課程編成認定の申請を予定しているくすり・調剤事務科、看護科分野の委員も加わっている。これら 2 学科の教育課程編成委員会も立ち上げることにしている。
- ・就職内定先については、総合病院、大学の附属病院への内定が増えている。
- ・医療秘書科の 2 年次コース選択については、昨年度は調剤事務コースが多かったが、今年度は小児・病棟クラークコースが若干増えた。
- ・医療マネジメント科の 2 年次コース選択については、今年度とほぼ同等数。

4. 平成 30 年度の教育活動と学科運営に関する報告

(1) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.5 に基づき以下の報告が行われた。

- ・退学者防止の取り組みは昨年に引き続き一定の効果を得ている。
- ・2 年生の後期に四半期科目の授業を行った。
- ・サポーターシステムを導入したところ、ある程度の効果はあった。引き続き取り組み検証したい。
- ・来年度は今年度と同等の人数でスタートする見込みである。

(2) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.5 に基づき以下の報告が行われた。

- ・資格、検定の取得は重点目標の一つとしている。

- ・インターンシップにおいて、激務、職場環境を理由に辞退者が出た。現在は就職活動中である。
- ・病院事務実習については、次年度に向けて実習時期、期間の見直しを行った。
- ・退学者の退学理由は、進路変更のほかに家庭事情、メンタル問題が複合的に絡み合っている。
- ・退学防止対応にあたり保護者対応に苦慮することがあった。
- ・診療情報管理専攻科への進学を選考にあたり、複数回の模擬試験の点数の推移や成績を確認し、面談を実施している。
- ・就職未決定者の中には就職を希望しない学生も含まれている。

(3) 診療情報管理専攻科

- 黒田学科長より、資料No.5に基づき以下の報告が行われた。
 - ・診療情報管理士試験の取得に向け、模擬試験、小テスト、集中講座を行ってきた。
 - ・診療情報管理士試験の結果については、平成 29 年度と同様の 90%以上の合格を期待している。
 - ・就職は早期に全員決定している。

5. 平成 30 年度教員研修計画・実績について

- 三宅教務委員長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。
 - ・研修参加数は、この3年間で3倍になっている。
 - ・本校主催の研修は、8月に実施した。第2回は3月に予定している。

6. 平成 30 年度授業公開について

- 三宅教務委員長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。
 - ・今年度は後期の10月から11月にかけて実施した。
 - ・今年度は不参観者ゼロの目標を達成した。
 - ・兼任教員の授業参観者数は前年度より2割以上増えた。
 - ・常勤教員は授業コマ数が多く参観が難しい状況があるため、学科ごとに時期を設定するなどの検討に入っている。
 - ・兼任教員に対しては、ポスターの掲示、個別の案内を行ったが、教務委員会だけで公開参加数を大きく伸ばすことは難しい。今後検討していきたい。

7. 授業アンケートに関する報告

(1) 平成 30 年度の実施状況

	授業アンケート		学校生活に関する調査
実施期間	前期：6/18(月)～22(金)	後期：12/3(月)～7(金)	12/3(月)～14(金)
実施数	・306科目 7,198回答	・280科目 6,867回答	・591回答
公表	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・学外：平成30年度活動の自己評価報告と併せて本校ホームページに掲載予定 		<ul style="list-style-type: none"> ・学内：教職員は学内ネットに掲載、学生、兼任講師は図書室に配架 ・学外：非公表

- 橋本校長より、資料No.8に基づき以下の説明が行われた。
 - ・ほとんどの授業がおおむね良好な結果となっている。
 - ・自由記述は速報で担当教員にフィードバックしている。

- ・結果を人事考課に加味することはないが、新たに授業を依頼する場合などに参考にするケースがある。
- ・学校生活に関する調査の結果を受けて改善したところを掲示で知らせている。今後もPDCAサイクルを回していく。

○質問と回答は以下のとおり。

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/>外国人の学生は増えているか。</p> <p><input type="checkbox"/>学校の視察に行くと九州あたりは外国人が多いと感じる。</p> <p><input type="checkbox"/>病院でも外国人を受け入れるようになり、日本での就職を希望している外国人が多い。日本語ができる人の受け入れと日本語教育をしながらの受け入れが考えられるとよい。</p> <p><input type="checkbox"/>外国人に対しては文化の違いによって医療に膨大な手間がかかる。教育もその点を検討したほうがよいのではないか。</p>	<p><input type="checkbox"/>介護福祉科、くすり・調剤事務科に在籍。本校の場合はN2相当の基準を守り、語学力に問題のない学生が入学している。今後は奨学金制度、学びに係るアルバイトの支援等の仕組みづくりを進めていく。</p> <p><input type="checkbox"/>九州や関西は外国人を積極的に受け入れている。特定技能ビザの開始によって、関東もこれから外国人の流れが拡大していく。</p> <p><input type="checkbox"/>医療秘書科に出席した方は合格に至らなかったが、意欲のある外国人を受け入れる体制は用意しておかなければならないと思っている。</p> <p><input type="checkbox"/>くすり・調剤事務科には日本人より優秀な留学生が入学している。本校留学生のブログを見て本校に入学する人もいて、いい流れができてきている。来年度以降は日本語の補習など学びのフォローもしっかり行っていきたい。医事系の学科についても今後はそういう方向を目指したい。</p> <p><input type="checkbox"/>関連業界とともに考えていかなければならないと思っている。</p>

8. 2019年度カリキュラムについて

○吉川学科長、黒田学科長、江崎委員より、それぞれ資料No.9に基づき以下の説明が行われた。

(1) 医療秘書科

- ・これまではパソコン系の授業の中でタイピングの時間をとっていたが、速度アップが望めなくなってきたため、「タッチタイピング演習」を加えた。
- ・人と接することが不得意な学生が増える傾向にあり、相手のことを気遣える人になってほしいということもあるので、ホスピタリティ系の科目を増やした。

- ・最近では固定電話のとり方、かけ方がわからないという学生が増えているため、「病院受付実務」や「ホスピタリティ」の中で日常生活のことに時間を割いている。
- ・未熟な状態で実習に臨んでいるケースが多く見受けられるので、実習指導は1年生の後期から始める必要があると考えている。
- ・社会変化や家庭環境に対応し基礎部分を強化した点が大きな特徴になっている。
- ・2年次のカリキュラムに変更点はない。

(2) 医療マネジメント科

- ・「社会人基礎A」「社会人基礎B」「マナーホスピタリティⅠ」「マナーホスピタリティⅡ」を設け、社会人化教育を重視している。
- ・パソコンに関して基礎的なことができない学生が少なからずいるため「パソコン基礎実践」「パソコン基礎知識」によってパソコンの基礎を固める
- ・診療情報管理士コースと医療事務コースで科目を分けた。
- ・診療情報管理士コースの科目は日本病院会のカリキュラム改編に対応させる形で改編した。
- ・「コーディング演習Ⅱ」を2年次の前期に設定し、「コーディング演習Ⅲ」は廃止した。
- ・診療情報管理士試験対策の強化として、診療情報管理士コースの「臨床医学総合」、「診療情報管理専門領域総合」を新たに設けた。
- ・4年制は変更していない。病院での研修、学会発表、卒業論文の作成・発表に合わせたカリキュラムになっている。
- ・診療情報管理士コースと医療事務コースの科目名「医師事務の基礎」を「医師事務作業補助実務」に訂正する。

(3) 診療情報管理専攻科

- ・日本病院会のカリキュラムに対応させ、DPCの科目、パソコン関連科目の改編に重点を置いた。
- ・「DPC実践」は算定をするだけでなく、様式1の入力、様式1からのデータ分析を含む実践的内容にする予定である。
- ・「がん登録演習」は、来年度から正式に院内がん登録の初級者認定を学生に受験させることになったため、その対策を行う。それに伴い、当校で作成している診療情報管理士のアプリに付随する形でがん登録のアプリを作成し、授業に間に合うように手配を進めている。
- ・「マイクロソフトオフィス」は、現行の医療マネジメント科のカリキュラムではMOSを取得させているが、実務能力がおぼつかないためビジネス文書や集計の能力向上を目指している。
- ・「データベース応用演習」はデータベースの分析に対応できるように、アクセスからSQLの言語を使う少々複雑な内容の集計、分析を考えている。

(4) 医師事務技術専攻科

- ・代行入力ができるレベルを目指し29年度のカリキュラムを改編した。入力関係の授業数を増やし文書作成を若干減らす形で教育を行う予定である。

○質問と回答は以下のとおり。

質問・意見等	回答等
--------	-----

□先ほどの電話の件に関して、何かあったときに自分から出向いて解決していくということができていない、メールだけで報告を入れておくというふうには、人と話すのが怖いという人が増えている。事務系だけでなく、若い看護師、クラークにもそういう傾向があり、管理者の間で話題になっている。

□集計ができて当たり前と我々は思っているので、診療情報管理専攻科のように他学科もデータベースの演習をやってほしい。

□データベースに関してはいろいろな情報をとらなければならないので、エクセルではなくアクセスでないと処理できない。

□医療秘書科も医療マネジメント科も、DPCの基礎やタイピングのレベルではなく、医事のデータベースの教育をしておかないと、医療事務の仕事は難しいと思う。

□ITスキルが大事になるからこそ、ただコードをつけるというところで終わってはいけない。「コーディング演習」は将来的に科目名を検討したらよいと思う。臨床医学の基礎は、カルテのことで医師と話ができるようになるために学んでいるということを学生に伝えてほしい。IT化された中でコードは自動的につくが、カルテを読んで病名がわかるように教えていただきたい。

□診療情報管理専門課程の試験が難しくなっている。

□マイクロソフトのスペシャリストをとるような設定はレベルが高過ぎるのか。

□電話が鳴ったらとるとか、人がいたら声をかけるという習慣がなくなった。病院に限らず、顧客からの電話に出られないと仕事が始まらないので、抵抗なく一歩目が踏み出せるようなレベルを目指したい。

□10年ぐらい前から固定電話を見たことがない人ばかりで、入職時のカリキュラムには電話の使い方を取り入れている。キーボードが使えない人もいる。キータッチができないと幾ら優秀な人でも仕事が進まず仕事を続けられなくなってしまふ。

□オフィスソフトは全て行っているが、上手に使い分けて統合するということまではなかなか行きつかない。医療秘書科は、次年度はワードかエクセルのいずれかをとらせたい。

□試験については今過渡期で、試験内容は年々変わっていく。ここ数年はリサーチしたほうがよい。

□問題集を繰り返し解けば割と取りやすい資格だが個人差がかなりあるので上位の学生の伸び残しは避けたいと思う。今後検討していきたい。

<p>□メディエーションに関しては、患者に対するメディエーションだけではなく、医療者側のメディエーションもあり、視点が難しい。</p> <p>□メンタル部分を強化する必要がある。</p> <p>□組織力でどうするかが課題。支払いのことに端を発するクレームも多々ある。そういう現実も知っておいてもらわないと学生たちはびっくりすると思う。</p> <p>□何か注意をしたとき、今の人たちは返事がない。せめてうなずくか、声を出すだけで少し違ってくると思う。</p> <p>□医療マネジメント科4年制の、学会の発表、論文作成はありがたいことだと思う。文章で、段落、読点、起承転結がないケースが非常に多い。</p> <p>□議事録や報告書も書けない。論文レベル以前の社会人教育もされるとよい。</p> <p>□最近の新人教育はどういうところに力点を置いて行っているか。</p> <p>□医師事務技術専攻科で教育を受けてから病院に勤める場合、医師事務の32時間講習を受講済とできるものなのか。</p> <p>□診療情報管理士は指定校制度があるが、医師事</p>	<p>□メディエーションは考え方の基礎を教えている。実地ではわからなくても頭ではわかっている学生は多い。実習やインターシップに行ったときに、大変な患者に病院の職員がうまく対応していて感心した、できるだけそこに近づきたい、というコメントを書く学生がいる。患者に対する覚悟はある程度あると思うが、むしろ職場の人たちとの対応にどう対処するかが課題だと思っている。</p> <p>□医療マネジメント科4年制では論文指導専門の教員がついている。</p> <p>□実務を重点的に教えている。医療用語を理解してコミュニケーションがとれれば、実務として一応成り立つ。</p> <p>□実務がうまくいくと周りの先輩たちの見方も変わり、ストレスを感じない、長く働けるという方向へ行く。上司と合わないときに、自分が潰れないように勇気を持ってどこかに相談に行く力をつけておけばよいと思う。</p> <p>□一定の基本的な教育を行っているが、診療情報管理士の場合、自分で毎年目標を立てて、学会発表や資格取得で能力を高めてもらうようにしている。</p> <p>□どこでもそのようにはなっていない。診療情報管理士のコースを32時間の研修受講済とみなすことになったが、ハードルが高い。学校教育と併せて日本病院会で行っている内容を勉強させ、修了証をとるという考え方もあると思う。</p> <p>□日本病院会は病院に勤務していることが</p>
--	---

<p>務はどうなのか。</p> <p><input type="checkbox"/>調査した上で、またご相談させていただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>講演をしたときに感じたことだが、一方的な講演スタイルでなく、必要な情報を学生にあらかじめ伝えておいた上で質疑応答の形で行ったほうが学生の将来にとってはよいのではないか。</p>	<p>条件になっているが、全日病は条件になっていないので、在学中に診療情報管理士のコースを並行して受講しておくといいかもしれない。</p> <p><input type="checkbox"/>専門分野の現場の方の話は非常に刺激になると思う。次年度も実施する予定なので、形式はこれから検討していきたい。</p>
---	---

以上